

【自由曲】

(全体)

難易度の高い曲ではありますが、練習の成果が感じられます。

特に練習番号 N は感動的に歌い上げられているので、そこまで如何にして聴き手をはなさない演奏ができるかが勝負だと思います。

課題曲同様、改善点に絞って解説します。

特に前半部分は、演奏が不明瞭になっていることが多いです。不明瞭に聴こえる原因は、各パートの出だしやリズムが微妙にズレてしまっているためです。様々な声部が絡み合っているのに、普通に吹いても複雑な曲なのに、それぞれの声部でズレてしまうと、聴き手としては、何をやっているのかははっきり見えてこない、という印象を受けてしまいます。

また、後述しますが、変拍子特有のリズム感をもっと出せると良いです。リズムだけでなく、「拍子感」というものをイメージできると良いですね。通常の拍子で拍子感を出し過ぎるとクドイ印象を受けますが、変拍子の場合、独特な拍子感をはっきりと聴かせることで、音楽的な効果が上がる人が多いです。

課題曲同様、ダイナミクスの幅がもっと出ると良いですね。

ダイナミクスの考え方は、課題曲の部分で解説した通りです。

この自由曲のように、劇的で感動的な音楽では、ダイナミクスを効果的に使えたと、より感動度合いが上がります。

(個別)

・サクソソロ前半

3小節目から始まるタイの伸ばしの音は、ビブラートをかける場合、はっきりかけましょう。難しい場合は、ノンビブラートでもありです。

それと音程が若干高いのが気になります。サクソが高い分、フルートとのオクターブが狭く感じます。サクソが下げられれば良いですが、難しい場合は、フルートが音程を高めにとれないか相談してみてください。マウスピースを嚙んで高音域を出そうとすると、音程が上ずりがちです。

・練習番号 A

リズムがぼやけて、装飾音符の縦線は綺麗に合わせましょう。

・練習番号 C

低音楽器の伸ばしは、小節頭の音は最重要ですが、鳴らしたらすぐ引いて、4分音符のパートに道を譲ってください。

・練習番号 D

変拍子の雰囲気ははっきり出ると良いです。ポイントは3拍目(3/8拍子)の部分で、少し跳ねると、雰囲気が出ます。今は2/8も3/8も同じような演奏で、平たんな演奏になってしまっています。49小節目の6/4拍子は、4分音符が6つではなく、最初の3拍は、3/8+3/8になります。(アクセントの位置がヒントです)3/8なので、このアクセントで少し跳ねます。

・練習番号 E

ホルンと木管パートのテンポ感が合っていない、乱れて聴こえます。まずは同じ動きをしているセッションごとで、リズムを揃えましょう。それができたら低音+ホルン、低音+木管でできているかをチェックしましょう。課題曲・自由曲通して、この箇所が1番気になりました。時間は少ないですが、諦めずに頑張ってください！

・62・63小節目

タイで繋がっている実音 G の音程が低いのが気になります。フレーズの頂点の高い音の音程は、高くなる分にはさほど気になりませんが、低いとかなり気になります。

・100小節目

最後の3連符は、全パートははっきりタンギングして、音の粒が見えるようにしましょう。

・練習番号 M (サクソソロ後半)

同音が並んだとき、最初の音に対して次の音は、

- ①前の音より大きく（前に進むように）吹く
- ②前の音とあえて同じ音量で吹く
- ③前の音より小さく（優しく収めるように）吹く

大きく分けるとこの3通りです。

3つのどれを選ぶかは解釈で、奏者の好みによりますが、どう吹きたいか迷いを感じているようでした。

タンギングはもう少しソフトにできるとなお良いです。今は舌をつき過ぎています。舌の力は強く、リードに少し触れるだけでも、振動を止めることができ、音は切れます。コンクールまで時間がないので、今後のためにはなりますが「ハーフタンギング（舌とリードが振れている状態で、ミュートのような音出す奏法）」の練習は効果的です。どのくらい舌をつければ音が止まるのか、舌をつけて音が出る・出ないの境界線を覚えてほしいです。ぎりぎり音が出ない状態が、吹奏楽やクラシックで多用する、美しいタンギングになります。

また、111 小節目から $m f \rightarrow m p$ と進行しますが、この差ははっきりつけましょう。111 小節目が呼びかけ、112 小節目がそれに対する応答です。やまびこのようなイメージでもあります。

・練習番号 N・O

非常に良く歌い上げられています。低音楽器がもう少し存在感を出せるとより感動的になると思います。ただし、音量を上げて、音色は硬くならないに注意してください。トランペットはもう少しリラックスして吹けると良いです。

・練習番号 R

アルト・テナーサクソで音楽全体をリードできるようにしましょう。若干テンポも遅れて聴こえます。硬い・痛い音が出にくい音域なので、もっと吹き込んでも大丈夫です。力むと響きが止まるので、注意してください。また、発音をはっきりすると、バンドの中から浮き出て、聴こえやすくなります。

・練習番号 U

クラリネットセクションの音量がもっと出るようにしてください。メロディではないですが、この声部が聴こえることで、クライマックスに向けてテンションが上がります。

・練習番号 X

2 回出てくる ffp は、どちらも音量差がもっと出ると良いです。f も p もどちらも足りません。